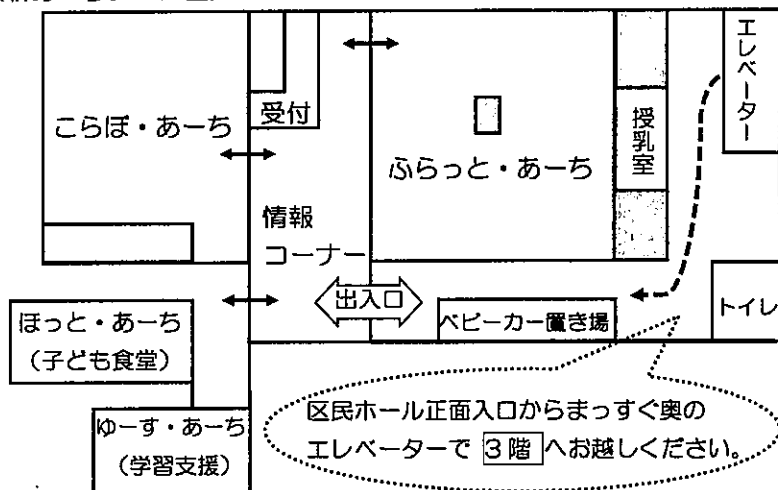


あーちがお引越しします！

あーちは3月28日（火）10時30分より
灘区民ホール3階でオープンします

3月12日（日）～27日（月）は作業のため休館させていただきます。

〈新あーちフロア図〉



- ・区民ホールの駐車場は利用できません。
- ・自転車は区民ホール東側（都賀川沿い）に停めてください。
正面玄関前は駐輪禁止です。
- ・開館時間：火～木曜日・土曜日 10：30～16：30
金曜日 20：00 まで
- ・休館日：日曜日・月曜日・祝日・毎月第2火曜日

えんじえる君 最終回 by Pon

豊かな会話～電車～



Message
from U.S.A.～

私は、最近スポーツジムに行くようになり、そこでお友達やお知り合いができました。お友達になったきっかけは、その方が、日本語で「おはようございます。私は・・・と申します」と挨拶をしてくれたことでした。さらに、周囲の人もその人それぞれが知っている日本語を言って私とコミュニケーションをし始めてくれました。日本語で、数を数えられる人や日本語の単語を知っている人、日本語を知らない人は日本語を覚えようとしてくれ、挨拶を通してぐっと皆が親しくなりました。人は、何かとの関係性を通じて世界を広げて行くと言われますが、挨拶は、新しい世界への入り口だと思いました。新しい世界へのドアをノックするのは、少し勇気のいる時がありますが、是非、新しくなったあーちで「おはようございます」「こんにちは」とニコリ微笑んで、新しい世界を広げてみませんか。

（アメリカ イリノイ州在住 東口たまき）

3 月 予 定 表

		こらぼ・あーち	あーと・あーち	ふらっと・あーち
1	水	あーち博物館（準備）		
2	木	あーち博物館 展示	ピーナッツ運営会議 午前中	
3	金	あーち博物館 展示 そう列車がやってきた 練習 5時30分～	居場所づくり 4時～	灘区民ホール3階にて、 よる・あーち（居場所づくり、 学習支援、子ども食堂）実施中。 毎週金曜日 5時～8時
4	土	あーち博物館 展示 いのちをつなぐイベント どう列車がやってきた 発表 2時～		
5	日	休 館		
6	月			
7	火	あーち博物館 展示 ～3時		おひさまひろばあーち（午前中）
8	水	あーち通信編集会議 1時30分～ あーち連絡協議会 3時～5時		
9	木		筆をもとう 1時～2時30分	ベビーマッサージ（はいはい） 11時～
10	金	親子わらべ歌あそび 11時20分～ 居場所づくり 3時～6時	めだか親子クラブ 4時～	
11	土	みんなあつまれ！あいがどうあーち♡ 11時～12時		
12	日	あーち移転による引越し作業のため 3/12（日）～27（月）は休館させていただきます あーちは3/28（火）より灘区民ホール3階で再開します   ※灘区民ホールは現あーちから山手幹線を西へ、都賀川を渡ってすぐ。 よる・あーち って？ 金曜日の夕方から夜に実施している「あーち居場所づくり」「あーち学習支援」 「あーち子ども食堂」の総称です。学生や地域のボランティア、灘区連合婦人 会のご協力を得て、たくさんの人たちが子どもと一緒に活動しています。 *ご利用には要件があります。お問い合わせ下さい。		
13	月			
14	火			
15	水			
16	木			
17	金			
18	土			
19	日			
20	月			
21	火			
22	水			
23	木			
24	金			
25	土			
26	日			
27	月			

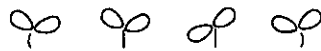
新あーち オープン

		こらぼ・あーち	ふらっと・あーち
28	火	あーち人形劇団「むー」企画会議 1時～	オープニング・セレモニー おひさまひろばあーち（午前中）
29	水	あーち♡ビギナーズ交流会(予約制) 1時30分～	ベビーマッサージ（ねんね） 11時～
30	木	ピーナッツ運営会議 午前中	
31	金	よる・あーち 4時～8時 居場所づくり（こらぼ・あーち） 4時～ 学習支援（ふらっと・あーち、ゆーす・あーち） 5時～ 子ども食堂（ほっと・あーち） 6時～	

- ・太字のプログラムは今月の特別プログラムです。
- ・プログラム参加の年齢制限はありません。内容などの詳細は受付までお問合せください。
- ・ベビーマッサージにご参加の方は、バスタオルを1枚お持ちください。
- ・「ふらっと」は16時30分より整理整頓の時間とさせていただきます。

プログラム案内

アートセラピー・・・自然素材や絵の具、粘土など様々な素材に触れながら、体全体で創作表現します。
居場所づくり・・・障がいのある子どもを中心にいろんな人が集まって互いをよく知り仲良くなろう。
おはなしエプロン・・・絵本の読み聞かせ。絵本の楽しさ、美しさをお伝えします。
おはなしの国・・・ろうそくが灯ったらおはなしの世界のはじまりです。(絵本の読み聞かせ)
おひさまひろばあーち・・・灘区内公立保育所の保育士さんによる親子体操や手遊び、歌やお話など。
おもちゃ病院・・・壊れたおもちゃを修理します。
親子わらべ歌あそび・・・口から口へ伝わる「遊ばせ遊び」はおとなと子どもの結びつきを強めます。
音楽の広場・・・参加型の演奏、おはなしなど、音楽を通してさまざまな人々が出会う場にしています。
ビギナーズ交流会・・・生後6か月頃までの赤ちゃんとお母さんのための交流会です(予約制)。
筆をもとう・・・書の初歩から学びます。気軽に楽しく書に親しみましょう。小学生以上～おとな対象。
ベビーマッサージ・・・バスタオルと赤ちゃんの飲み物(お茶、母乳など)を持参してください。
ほのぼの音ランド・・・音楽療法士による季節のうたや楽しいリズム遊び、楽器遊び。
めだか親子クラブ・・・身近な材料で、ぶんぶんゴマや竹とんぼなどの楽しいおもちゃを作ります。
らくがきお婆さんがやってきた・・・何を描こう?何を作ろう?みんなで自由にアートを楽しみます。



<ふらっと相談員> ～お気軽にお声をかけてください～

火曜 午前 保育士
午後 灘区地域活動支援コーディネーター(不定期)
水曜 午前 NPO 法人マザーズサポーター協会(第4水)
午後 灘区地域活動支援コーディネーター(不定期)
木曜 午前 助産師(月2回)
全日 助産師/保育士(11:00～16:00)
土曜 午前 助産師(第2土)

あーちのルール

☆オムツやゴミはお持ち帰りください
☆託児はできません
☆就学前のお子さんが遊ぶときは、保護者の付添いが必要です
ルールを守って楽しくすごしましょう!



絵本の世界へようこそ



「おじさんのかさ」

作・絵：佐野洋子
出版社：講談社
発行：1992年発行

口 大きくなるって
こんなこと!

ルース・クラウス ぶん
ヘレン・オクセンバリー え
山口 文生 やく
評論社 2014年4月

おじさんは、黒くて細くてぴかぴかの傘をとてても大事にしていました。雨が降っても、傘がぬれないように、傘をささずにいました。ところがある日、子どもたちが傘をさしながら楽しそうにしている様子を見たおじさんは自分も傘をさしてみようという気持ちになります。

おじさんの変化していく様子は、子どもたちはもちろんのこと、一緒に読んでいる大人にも訴えかけるものがあります。佐野洋子さんの絵はあたたかみがあり、「ポンポロロン」「ピッチャンチャン」などのオノマトペは思わず一緒に口ずさみたくなるでしょう。親子そろって、楽しめる絵本です。

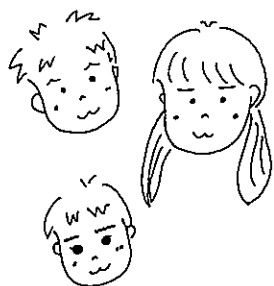
(神戸大学 発達科学部 人間形成学科 みぼりん)

春、小さなぼうやが かあさんに「草も 木も お花も
みんな そだっていきんだね」 中略「ぼくも大きくなるのかな?」
「もちろんよ」と あかあせん。(本文より)
幼い頃 「ほんまに大きくなる? 大きなた?」って
思いませんでしたか?
日々の生活の中では 自分で身も 心も成長したと
自覚しにくいんですよね。
ぼうやに 共感しながら 季節・ぼうや・小犬・七羽の姿を
あたたかい気持ちで見守り ページをめくってください。
最後のページのぼうやの表情が 語っています。

英家

二十四通目「あーちと我が家」

みのり



長女さん：ついに眼鏡っ子になります、小4

まんなくん：「どこ食べに行く?」「うどん屋行ってラーメン屋」、小1

3番目：スーパー戦隊が交代する時期は情報収集で忙しいです、4歳

あーちの移転にわくわくしつつも、なんだか寂しさを感じるこの頃です。今回は我が家のあーちとのかかわりについてつづいていこうと思います。

初めてあーちにきたのは、長女さんが5ヶ月から6ヶ月の時でした。産婦人科の子育てクラブで知り合ったママに誘ってもらったのがきっかけです。暑くなってきた「外で遊ぶのはちょっとね」という時期でした。初めて足を踏み入れた感想は...、「きれい! 明るい!」。小さい赤ちゃんが利用するのにぴったりで、おもちゃも絵本も「こういうのに触れさせたい」と常々思っていたようなものばかりでした。授乳室もおむつ替えスペースも完璧。「こんな気が利いた場所があるんだなあ」と感心したのを覚えています。

その日たまたま「ベビーマッサージ」があるということで、長女さんと参加。(ベビーマッサージは流行の先端でした。感動したのは言うまでもありません。) オイルを塗ってやさしくマッサージして、ゆったりと長女さんと触れ合っていると、毎日のあわただしさを忘れるようでした。このときあーちのスタッフさんに撮ってもらった写真が、しばらくあーちのパンフレットに使われていました。きっと長女さんがいい顔してたのね。

その後長女さんを連れて、手遊びや音楽遊びを目的に何回か通いました。お友達と出かけなくても、そこで出会ったお母さんたちと子育て話をゆっくりとすることもできました。しばらくして児童館や公園で会った時に「以前あーちでお会いしましたよね?」という会話を交わすことも多かったです。

まんなくんが生まれて、長女さんとまんなくんを連れて何回か利用しましたが、まんなくんが走り回るようになると、他の赤ちゃんを踏んでしまいそうで、なんとなく足が遠のきました。しかし数年を経て、そんなまんなくんを受け入れてくれたのが「居場所づくり」の空間でした。

当時私は多動でやんちゃなまんなくんを持て余していて、「まんなくんを連れて出かけられる屋内施設」を探していました。児童館では走り回り、次々おもちゃを出し、他のお母さんと子どもの視線が痛かったのです。インターネットで検索をして、あーちでの「居場所づくり」という取り組みを知り、急に訪ねていったある冬の金曜の夕方。私にとってそこは「救済の場」でした。まんなくんはボランティアのお兄さんにだっこや肩車や、全身使って遊んでもらい、本当に嬉しそうでした。お兄さんも笑顔で、まんなくんが大声を出しても誰も気にしない。「私たちはここにいていいんだ」と、肩の力が抜けた瞬間でした。

大学生のボランティアの人が何人も我が家の子どもたちにかかわってくれて、私はあーちでの学習会やイベントでどんどん知り合いが増えていきました。「ぞう列車がやってきた」の合唱も参加2年目になります。

長女さんが一人で参加しているあーちでのイベントもあり、我が家とあーちのかかわりは今後も続いていくと思います。長女さんがボランティアのお姉さんになる日も来るかもしれません。今までの「あーち」に感謝の気持ちを込めて。

早々